

東地区管内りんごの肥大状況は、ふじで2.1cm、王林で2.6cmとなっております。結実状況については、園地によってバラつきが見られているため、状況をしっかりと確認した上で、摘果を行うようにしましょう。今後はサビ果など果実形質の判別が可能になってくることから、仕上げ摘果へ切り替えて【強く】、【早い】摘果で7月上旬頃を目標に仕上げていきましょう。

1. 肥大状況

(cm)

区分	地域	年度	つがる	ジョナ	王林	ふじ
JA 生育観測圃	薬師堂	本年	2.7	2.7	2.8	2.6
	狼森		2.9	2.6	3.0	2.4
	森山		2.7	2.6	2.8	2.4
	駒木		2.2	2.0	2.2	1.6
	碓ヶ関(古懸)		2.0	2.3	2.1	1.7
	JA管内全体	平年	2.6	2.5	2.6	2.2
	1.9		2.0	2.0	1.7	

2. 摘果

・落花20日後頃からサビ果などがわかりやすくなってきますので、果実品質をよく確認しながら、7月上旬頃を目標に仕上げていきましょう。

・りんご1果あたりに必要な葉の枚数は50枚程度です。多く成らせすぎると、1果実あたりの葉の枚数が不足し、①肥大 ②食味 ③着色 ④次年度の花芽⑤樹の太り、カルスの形成などへ大きく影響します。仕上げ摘果が遅れないよう、また最終的に成らせすぎないように注意しましょう。

3. 薬剤散布 → 10日間の散布間隔と降雨前散布に努めましょう。

散布回数 散布時期	10aあたり 散布量	散布日	基準薬剤	倍数	1,000ℓ 当たりの薬量
第5回目 落花20日後頃	420ℓ	5/26	デラン(F) ダイアジノン(水) クレフノン(水)	1,500倍 1,000倍 100倍	2本(333ml×2) 2袋(500g×2) 1袋(10kg)
特別散布	500L	6/5	チオノック(F) クレフノン(水)	500倍 100倍	1本(2L) 1袋(10kg)
第6回目 落花30日後頃	500L	6/15	ジマンダイセン(水) サイアノックス(水) ネオミクス	600倍 1,000倍 250倍	1袋(1.67kg) 2袋(500g×2) 1袋(4kg)
第7回目 落花40日後頃	500L	6/25	ラビライト(水) オリオン(水) コルト(顆粒水) カルマッチ	500倍 1,000倍 6,000倍 770倍	2袋(1kg×2) 2袋(500g×2) 1袋(167g) 1袋(1.3kg)
第8回目 7月初め	500L	7/5	ジマンダイセン(水) アーデント(F) ダニオーテ(F) カルマッチ	600倍 2,000倍 2,000倍 770倍	1袋(1.67kg) 2本(250ml×2) 2本(250ml×2) 1袋(1.3kg)

○殺ダニ剤の散布について

6月中旬、下旬頃に園地の予察を行い発生が見られたら、早めの防除に努めましょう。

また、殺ダニ剤の選択でお困りの方は、お気軽に営農係へご相談ください！園地へうかがいます。

●マメコバチの管理

(1) マメコバチの活動終了後の巣箱は、7月上旬頃に回収し、直射日光が当たる場所や高温になる所を避け、風通しのよい日陰に保管しましょう。地面からできるだけ離して、巣筒の内部が加湿にならないように注意しましょう。冬季に暖房した部屋や日光の入る締め切った部屋には絶対に入れない。外気の入る部屋か野外条件下に置くようにしましょう。

(2) 巣筒を何年も利用し、筒内に古い繭が留まるようになると天敵による被害が多くなるので、3~5年に一度は巣筒を更新するようにしましょう。